

いのちいっぱい 感動いっぱい ～ ありがとうの旅を続けよう！～

今日からいよいよ2学期。これからの4か月、どんなことが喜須来小の子どもたちに待ち受けているのか、今からとても楽しみです。「運ははこべ」とよく言いますが、みんなの力でいろいろな苦難を乗り越えながら、ポジティブに元気よく前進したいと思います。どうぞ、2学期も皆さんのお力をお貸しください。よろしくお願いします。

ともだちになるために

少し前のお話になりますが、夏休み直前に行われた1年生の「お楽しみ会」でのことです。希望者が前に出て、友だちに自分が披露したいことを発表する時間がありました。歌を歌ったり、手品をしたり、コントをしたりと、「すごい！」と思わせるような発表ばかりで、芸達者な1年生のかわいい姿を見させてもらいました。その中の一人、Iちゃんは、一人である歌を披露してくれました。手に持ったノートには、自筆で一生懸命書いた歌詞がびっしりとつまっていました。Iちゃんが披露してくれた歌は、「ともだちになるために」。この歌は、きっと保育所や幼稚園でだれもが歌ってきた歌なのだと、聞いている他の1年生の表情や手拍子から想像が付きましました。一生懸命心を込めて歌うIちゃんと柔らかな表情で手拍子をする1年生の姿が、教室を温かい空気に包み込みました。1学期を精いっぱいがんばった1年生のとてもいい締めくくりで、私も心が温かくなりました。

Iちゃんの発表後、小休憩を取った1年生でしたが、廊下へ出てきた数人が、こんな話をしているのが聞こえて来ました。

「Iちゃん、ぜったいともだちたくさんできるね。」

「うん。まちがいないね！」

感謝を形に

夏休み開始直後に行われた市内水泳記録会。1か月半の練習をチームとして取り組んできた我が喜須来小水泳部。前号で紹介したように、顧問の「最後まで泳ぎ切れ！」の思いを胸に、子どもたちは、ひたむきに日々の練習に取り組みました。その練習が功を奏して、一人一人がベストタイムを出したり、入賞したりするなど、見事な活躍を見せてくれました。

記録会終了後、チーム喜須来は、プールサイドに立ち、会場準備や運営に携わっていただいた先生方や応援していただいた皆さん、そして、挑戦する場を与えてくれた宮内小プールに向かって一礼をしました。チームを支えたキャプテンKさんの「喜須来小学校です。ありがとうございました！気を付け！礼！」の声は、プールサイドにいたすべての人に、さわやかな喜須来旋風を吹かせました。「いのちいっぱい 感動いっぱい ありがとうの旅を続けよう」のキャッチフレーズの実現を、喜須来小水泳部が見事に行ってくれたことに感謝しています。



あなたとわたしの風

みずほプロダクション、中村茂昭さんから、市民ミュージカル「激動の力士 前田山」へのチーム参加のお誘いがあったのは2月。そして、その最終ステージは、7月30日のゆめみかん舞台上。大きな、大きな経験を踏ませてもらった5・6年生にとって、このミュージカルに関わった時間は、一生の宝物であることは違いありません。

保護者の皆様には、3月のPTA役員会で参加の可能性があるというご紹介をさせていただき、4月10日、正式に5・6年生保護者の皆様に、出演目的や今後の取組についての依頼文書を配布させていただきました。子どもたちは、先輩である前田山の学習を行い、実際の練習は5月下旬からスタート。体育館に毎回来ていただく外部講師の方々と初めて試みるミュージカルの練習は、体験したことのないワクワク感でいっぱいでした。ただ、子どもたちにとっては、ゴールの見えない練習でしたので、今行っている練習が、どの場面でどのように生かされるのか分からないというところが、モチベーションづくりとしては難しいところだったように感じています。

修学旅行後、コロナの影響もあり、予定していた日程での練習ができなかったこともありましたが、また、練習が思うように進まず、予定に入れていなかった週に急きょ練習を取り入れたこともありましたが、歌やダ

ンスそのものの技術よりも、ミュージカル経験者ゼロの中で、モチベーションをキープし高めていくことが最大の課題だったように思います。

それでも、子どもたちは、だれ一人嫌な顔一つ見せず、講師の指示にしっかりと応えようと、汗だくになって練習を続けてくれました。



6月23日、いよいよ本公演への出演可否のアンケートを保護者の皆様に配布。何人の子どもたちが出演可能か心配かつ期待するところではありましたが、ほとんどの5・6年生が参加可能と回答

をいただき、飛び上がるほど嬉しかったことを覚えています。7月19日が5・6年生全員で行う最後の練習となりましたが、出場できない子ども達は、今日まで一緒に取り組んできたことの充実感と自分たちの分まで頑張っしてほしいという激励の思いを、それぞれの言葉で伝えてくれました。“出られない僕たちの分まで”という仲間の思いが、チーム喜須来としての結束力を高めた瞬間でした。そして、講師として毎回子どもたちを励まし勇気付けてくださった中村さんから最後の言葉をいただき、“がんばろう喜須来”の思いが固まったのです。



夏休みに入り、いよいよ本舞台での練習。7月26日と29日が舞台での練習・リハーサル。限られた時間での最終調整でした。子どもたちは、当然ステージに上がるのも初めて、動きも何も全く分かりません。緊張の連続の中で、動きに関する指示がどんどん飛びます。訳が分からないままで、本当にこれで間に合うのだろうかと心配しました。ゆめみかんの練習が始まってからは、もちろん監督である大杉さんの指示どおりに



動きます。ただ、一度も話をしたことのない出演者の皆さんとの心の距離は、そう簡単に縮まるはずありません。大杉監督に出演者全員でお話をする時間をいただき、子どもたちのモチベーションは、一気に高まりました。そのやる気が徐々に高まっているのが、歌声の張りや表情で分かりました。

「学ぶこと、感じること、やってみること」その三つが凝縮された濃い練習だったと感じています。

公演当日は、子どもたちは、待機時間を有効に使い、自主的に最終練習に臨んでくれました。指示待ちではなく、自分たちから



やろうとした姿が、声や動きで感じました。そして、本番では、最高のパフォーマンスを見せてくれた子どもたち。自分たちに向かってスタンディングオベーションをしてくれている満員の方々を目の当たりにして、子どもたちは何を感じたのでしょうか。何を目に焼き付けたのでしょうか。そして、その方々に、全員で伝えることができた「ありがとう」のお見送り。ここまですべて一緒に経験できたことは、夢のようなお話です。

最後に、このチャンスをいただいた中村さんはじめ、毎週丁寧に指導してくださった外部講師の皆さん、衣装の準備や体調管理、会場までの送迎、当日の観劇まで一生懸命応援してくださった保護者・ご家族の皆さん、地域の応援隊の皆さん、そして、このミュージカルに関わってくださったすべての方々に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

感謝の思いでいっぱいです！

体育館・校舎改修を終え、今夏さらに、敷地内の修繕や施設整備を行いました。その一つが、体育館入り口前のアスファルト工事です。雨が降ると大きい水たまりができ、それを避けながら通らなければならなかった体育館前ですが、建商さんに力を借りて、みごとに地盤整備ができました。また、26日の親子奉仕作業では、防球ネットの全面張り替えのためのペンキ塗り、長年溜まっていた溝の土出し、グラウンドの除草作業、体育館窓のテープ剥がし、校舎内の窓ふき、裏庭駐車場の竹林の伐採など、炎天下の中、保護者の皆様に助けていただきました。本当にありがとうございました。